

# 令和7年度 資源循環局 運営方針

## I 基本目標

- 持続可能な循環型社会を目指す取組の推進
- 市民・事業者を支える安定的なごみ処理の継続



## II 目標達成に向けた考え方

令和7年度は、横浜市中期計画 2022～2025 の最終年度であり、「子育てしたいまち 次世代と共に育むまち ヨコハマ」の実現に向け、未来を創る子どもたちに良好な環境を引き継ぐための施策に取り組んでいきます。

また、2050年カーボンニュートラルの達成やサーキュラーエコノミーの推進など、時代の変化に着実に対応していくとともに、将来にわたってごみの処理を安定的に継続していくため、3つの柱に基づき力強く施策を推進していきます。

### I 2050年カーボンニュートラルの達成に向けた施策の推進 ～「GREEN×EXPO 2027」を目指して～

「ヨコハマ プラ 5.3 計画」において重点施策に掲げているプラスチック対策に向け、全市展開したプラスチックごみの分別・リサイクルを推進するとともに、新たなリサイクルに向けた実証実験など取組を拡大していきます。加えて、SDGs の目標達成にもつながる食品ロスの削減や、子どもの環境学習の充実など、多様な施策を推進することで、市民の皆様の行動変容に向けたムーブメントを広げ、「GREEN×EXPO 2027」の機運醸成を進めます。

また、焼却工場において環境にやさしいエネルギーを最大限創出するとともに、所管施設のLED化や太陽光発電設備の設置などを進め、施設の脱炭素化を推進します。

### 2

### 持続可能な廃棄物処理の実現

市民生活と市内経済の安心・安全を支えるごみ収集・運搬・処理において、現場主義と市民目線を大切にし、いかなるときも着実に行います。また、ごみ焼却工場や資源選別施設等の廃棄物処理施設の再整備を進めるなど、安定的なごみ処理の継続と将来にわたり持続可能な廃棄物処理の実現を目指します。

### 3

### 市民の皆様のニーズに応える「市民目線」の取組の推進

誰もが暮らしやすいまちづくりに向け、分煙環境の整備等による受動喫煙対策の強化や高齢化に伴うごみ出し支援を着実に実施するとともに、頻発する大規模災害に備えるため、地域防災拠点等における避難所トイレ環境の充実を図るなど、社会状況の変化に伴う課題に対し、市民の皆様のニーズを踏まえた取組を推進します。

### III 目標達成に向けた施策

サーキュラーエコノミー・ 廃棄物分野の脱炭素化の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・プラスチックごみの分別・リサイクルの推進</li><li>・プラスチックごみの発生抑制・新たなりサイクルの取組</li><li>・公民連携による新たな取組</li><li>・施設における脱炭素化に向けた取組</li></ul>
食品ロス削減の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・価値観の醸成ときっかけづくり・場面に応じた実践行動の推進</li><li>・事業者等との連携・共有、働きかけ</li></ul>
環境学習・普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの環境学習の充実</li><li>・転入者・外国籍の方など対象者にあわせた広報啓発の実施</li></ul>
安定したごみの 収集・運搬・処理・処分	<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭ごみの安定的な収集・運搬・処理・処分の実施</li><li>・環境に配慮した安全で安定的なごみ処理の推進</li><li>・事業系ごみの適正処理</li></ul>
将来を見据えた施設整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・保土ヶ谷工場再整備や金沢工場長寿命化対策の実施</li><li>・新たなごみ焼却工場整備に向けた検討</li><li>・鶴見資源化センターや磯子検認所などの再整備等の推進</li></ul>
多様な社会ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・受動喫煙の生じない、きれいなまちづくりの推進</li><li>・暮らしやすい清潔できれいなまちづくりの推進</li><li>・ごみ出しに関する課題への対応</li><li>・災害への備え</li><li>・廃棄物分野における国際協力</li></ul>

各事業内容については、資源循環局令和7年度事業概要5ページ以降の「II 令和7年度資源循環局予算における推進施策」に記載しています。

### IV 目標達成に向けた組織運営

#### 一体感のある組織運営

社会的課題の解決には、局内の部署連携、区局横断の連携が不可欠です。当局職員一人ひとりが連携の大切さを認識し、チーム力を発揮しながら「スピード感」を持って目標達成に向けて取り組みます。

#### 風通しの良い信頼を育む コミュニケーション環境

職員がいつでも気軽に相談でき、自由に意見を言い合える「場」を作り、チーム内でのディスカッションを活発にして一人ひとりの能力やアイデアを最大限に引き出します。

#### チャレンジ精神を 後押しする組織風土

責任職が率先して働きやすい職場づくりを推進します。職員が仕事に対する魅力ややりがいを感じられるように責任職はスポンサーシップを発揮し、職員のチャレンジを後押しします。

チーム力の向上